

福山市生涯学習活動費補助金交付団体の活動を紹介します

福山市生涯学習振興基金運営協議会を2020年（令和2年）6月24日（水曜日）に開催し、5団体に交付決定しました。

その5団体の活動を視察しましたので内容を紹介します。

（1）「子どもの居場所づくり『smile+』」の取組について

日時：2020年（令和2年）11月16日（月曜日）

会場：坂里会館

内容：活動日「フリースペース『すまぷら』」



「子どもの居場所づくり『smile+』」は、地域の子どもが安心してすごせる居場所をつくろうとメンバーが集まって設立したボランティアグループです。2019年度から活動をしていて、現在の主な活動として、地域の会館を週2回フリースペース「すまぷら」として開放して開催しています。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、2020年3月から一時休止していましたが、8月から感染症対策をしながら再開しました。

この日は、フリースペース「すまぷら」の活動日で、学校から下校した子どもたちが、会館に勉強道具をもってきて、宿題をはじめました。宿題が終わった子どもは、近くの公園に遊びにいったり、屋内でメンバーとまっぼっくりを使ってクリスマスツリーの工作をしたりと楽しそうに時間まで過ごしていました。

代表の一宮さんは、「2019年9月からはじめている『すまぷら』の名前が地域の中で認知されてきたと感じています。参加してくれた子どもたちの活動の様子を保護者に報告することによって、保護者とも繋がりができはじめていて、今後は、子育てしている保護者を対象に、困りごとなどの話ができるような場をつくるといったような活動を広げていきたい。」と話されていました。

(2)「木版画ローラーの会」の取組について

日時：2020年（令和2年）11月21日（土曜日）

会場：伊勢丘公民館

内容：年賀状作りと東部図書館で開催される作品づくり



木版画ローラーの会は、2017年度から活動をスタートさせて、月に2回活動しています。ローラー版画とは、色ごとに版木を作成し、1枚の紙に重ね合わせることで、多色の版画作品が完成する版画の技法のひとつです。

完成までには多くの工程があり、原画を決めて、下絵描き、版画の作成、版木へ転写、彫り、色刷りをして完成となるため、大作となると半年にも及ぶそうです。

この日は、年賀状作りや2021年3月に東部図書館で行われる展示会に向けて、題材をスケッチしたり、版木を彫ったりしていました。

基本の8色から生み出される色は調合によっていろいろな色に変化します。また、パレートの摺り方は色の濃淡に反映されるのだと言われていました。

メンバー同士で意見交換やアドバイスをしあいながら、和気あいあいとした雰囲気を取り組まれていました。

(3)「インターナショナル・チーム」の取組について

日時：2020年（令和2年）11月21日（土曜日）

会場：本庄コミュニティセンター

内容：日本語教室



インターナショナル・チームは、毎月第1・第3の土曜日の午後に日本語教室を開催しています。日本語や日本の文化を学んだり、子育ての相談や生活の相談もできます。また、国際交流のイベントを開いたり、参加しながらお互いの交流を深めています。受講者の出身国も7か国あり、違いを認め合い共に助け合う大切さを身につけています。

活動の中心となるメンバーが、生活していく中で知り合った人に声を掛け、受講者を募っており、20人程度が参加していますが、毎回のように新しい受講者が来られるのも、この日本語教室の特徴となっています。

訪問したこの日は、受講者の要望に応える形で、少人数のグループで、学びたい日本語のスキルに応じて「日常会話」や「読み書き」などを学習されていました。

また、文化の違いから生じる日常生活の中での悩みや疑問に思うことなども話題にされ、グループ内で話し合われる場面も見られました。

メンバーの Beruna Tsuruta（ベルナ つるた）さんは、「言葉を学ぶことも大切ですが、悩みをシェアして楽しく生活するために助け合える教室としてずっと続けていきたい。」と笑顔で話していました。

(4)「防災力アップサークル」の取組について

日時：2020年（令和2年）11月22日（日曜日）

会場：新涯沖町内会館

内容：打ち合わせ



「防災力アップサークル」は、防災力を高め、助け合いの精神を育み、自分と家族と近所を守る力を育成する。活動を通じて地域防災力アップに貢献することを目的として活動しています。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響のため、子どもたちを主体とした「防災マップづくり」など予定していた行事を中止せざるを得ない状況がありましたが、できる範囲で積極的に活動をされています。6月には、メンバーで福山市役所を訪問し、避難所や地域の堤防補強など、10項目の質問をされました。そこで得た回答などの報告を定期的に発行している「防災だより」にシリーズで掲載しています。また、自治会との連携として、「災害に強い自治会」をテーマに自治会役員を対象とした4回連続の研修会を開催し、メンバーはグループワークのファシリテーターとして参加されました。

今後は、広報誌として現在14号まで発行している「防災だより」のダイジェスト版の製作を計画しているそうです。

代表の光成さんは「防災士の資格をもっているが、このサークルで活動して、はじめて気づくことや知る事のほうが多かった。これからもアンテナを張り、地域の防災力アップをめざしたい。」と話されていました。

(5)「深津ハーモニカサークル」の取組について

日時：2020年（令和2年）11月26日（木曜日）

会場：深津コミュニティセンター

内容：12月のソロ発表会に向けての練習会



深津ハーモニカサークルは、老人大学でハーモニカを学び、卒業後も学習活動を継続したいメンバーで、サークルを結成し設立から8年目を迎えました。メンバーは70～80代を中心に11名で活動しています。活動としては、月1回の日本ハーモニカ芸術協会認定の師範が指導される練習と月2回の自主練習を行っています。毎年、10回程度地元の公民館や介護施設を訪問し、演奏会を行っており、また三原や神辺の文化ホールなどで演奏会に参加することもありました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、公民館や介護施設の訪問、文化ホールでの発表会が中止になるなど、演奏会などの参加は1回しか出来なかったとのことでした。

この日の練習会は、複数の曲のレパートリーの中から難易度や場の雰囲気によって選曲をし、アンサンブルでの演奏の練習を行いました。また、今回は12月のソロ発表会の予行演習の日であり、各自、メンバーの前に出て、演奏する曲を選んだ理由、演奏中に気を付けていることなどを説明してから演奏を行いました。予行演習終了後、再度、アンサンブルでの演奏を行い練習は終了となりました。

メンバーの藤田さんは「今年は新型コロナウイルス感染拡大で演奏会がほとんど参加できませんでした。そういった理由もあって12月にソロ発表会をしようと決めました。やはり目標を設定することで、皆さん演習に熱が入っていて、今もソロ発表に向けて皆さん頑張っています。」と話されていました。